



# 『東北圏だより』

## 推進室の一員となって(観光の現況と復興に向けた取組について)

東北圏広域地方計画推進副室長 穴戸 紳一郎

(東北運輸局 企画観光部 計画調整官)

7月1日付けで副室長に着任した穴戸と申します。よろしくお願いいたします。

3月11日に発生した大震災では、多くの産業が甚大な被害を受けましたが、観光産業も例外ではありません。

国は観光立国の推進を図るため、将来的に訪日外国人を3,000万人まで増やそうという目標を立てています。訪日外国人数は大震災直前まで、対前年比でプラスを継続してきましたが、大震災後の3月は対前年比で50%減、4月は実に63%減と大幅に落ち込みました。その後、マイナスの幅は徐々に小さくなってきてはいますが、まだまだ厳しい状況が続いています。国内の観光についても東北地方の観光施設の入り込みは、以前として厳しい状況が続いています。

対策として、国では海外メディアや旅行会社を招請し、安全性の理解を深め、正確な情報を発信することで誘客に繋げる取組などを行っています。国内観光の復興に向けても、7月に仙台市で開催された東北六魂祭のような東北地方の夏祭りを契機とした観光復興支援などに取り組んだところです。

観光産業は他の産業にも密接に関係した裾野の広い産業です。観光産業を元気にすることは他の産業をも元気にすることになります。東北圏広域地方計画の戦略的目標の1つに、地域観光資源を活かした観光交流の拡大が掲げられています。ご承知のように、今年の6月に平泉が世界遺産の登録を受けました。これが東北の観光復興の起爆剤となり、あるいは「核」となり、東北の観光が一日でも早く復興し、東北圏の活性化が図られるよう願っています。

現在、推進室では先の幹事会で報告したように、皆様からご協力をいただいた大震災から得られた教訓等の検証作業を行っています。今回の大災害から得られた観光も含めた貴重な教訓が反映されるような東北圏の広域地方計画を示したいと思っています。推進室全体の打合せでは、各推進室員の白熱した議論に圧倒され続けていますが、少しでもお役に立てればと思っています。今後とも皆様のご協力方よろしくお願いいたしまして挨拶いたします。

## 東北圏広域地方計画を巡る動き

### 東北圏広域地方計画シンポジウム (開催告知)

#### 「東日本大震災、被災地からの証言」～東北圏の教訓と課題を活かすために～ 開催のお知らせ

本シンポジウムは、東日本大震災の災害対応を通じて得られた多くの貴重な教訓や課題を東北圏広域地方計画をはじめとする各種地域づくりに活かすため「東日本大震災、被災地からの証言」と題し、被災した自治体の首長、企業代表者をスピーカーとして迎え「大震災に直面したその時、何を考え、どのように立ち向かい、何を得たのか」などを証言していただき、今後発生が懸念される首都直下地震、東海・東南海・南海等の巨大地震に対して「得られた教訓・課題」をどのように活かし、何を備えるべきかについて考える場として開催いたします。

被災自治体の首長等から被災体験を直接聞ける貴重な機会ですので、是非多くの皆様の聴講をお待ちしております。

○日時 平成23年11月28日(月) 11:00～16:00

○場所 日本教育会館 3F 一ツ橋ホール

東京都千代田区一ツ橋2-6-2

○主催 東北圏広域地方計画協議会

○参加費 無料

参加申し込み方法等シンポジウムの詳細については、東北圏広域地方計画のホームページをご覧ください。 → <http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/>

## 広域地方計画に係わる動き

### ○第18回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会開催報告

10月17日に第18回幹事会が開催され、計画の検証作業として進めている「東日本震災における教訓や課題」の整理や企業アンケート等による経済影響調査の中間とりまとめ状況について、議論が行われました。

今後、これらの最終とりまとめを行い、それをもとに計画の点検作業を進め、計画見直しの是非について検討することとなりました。

次回の幹事会において、検討結果を報告し、見直しの必要について議論します。

(最終とりまとめ結果については、今後、東北圏だより等で情報提供をさせていただく予定です。)



▲第18回幹事会の様子

## 第5回東北発コンパクトシティ推進研究会を開催

東北圏の地方都市におけるコンパクトシティの考え方や、その実現に向けた取組手法について検討する「東北発コンパクトシティ推進研究会」(主催：整備局、後援：日本都市計画学会東北支部)を、10月20～21日に、岩手県北上市内で開催しました。

本研究会は、各都市がコンパクトで持続可能な都市づくりを推進するため開催しているもので、東北圏広域地方計画においては「都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト」が掲げられています。第5回目となる今回は、都市中心部と周辺部の農山漁村地域の連携・共生の観点から「集落・団地等の維持・活性化と地域公共交通のあり方」をテーマに、学識経験者や自治体担当者など約80名の方々の参画を得て開催しました。

初日は、首都大学東京助教吉田樹氏より、北上市や八戸市等の様々な取組事例を基に「まちづくりのための公共交通戦略」と題して基調講演をいただいた他、北上市長より「あじさい型集約都市へ」と題して、市の都市づくり戦略について紹介していただきました。その後、盛岡市の松園ニュータウンでの取組を参考にしながら、各自治体が抱えている郊外住宅団地や集落等の維持・活性化に関して、全体討論会が行われました。

2日目は、集落の取組として口内地区(北上市東端の中山間地に位置する人口約1,800人の地区)における「店っこくちない」を見学、同地区の町民による「過疎地有償運送」の説明を聞いた後、市内に戻り市街地のバス経路を再編しバス停を集約した「まちなかターミナル」を見学しました。参加者からは運用に関する質問が多くあり、参考にしたいといった意見がありました。



▲全体討論会



▲現地見学(店っこくちない)

## 編集後記

10月の人事異動で東京から東北に赴任し、担当の一員になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、テレビやインターネット動画で見た被災地域に初めて行ったのですが、まず、その被災規模に圧倒され、また画面では分からない諸問題、例えば中心市街地から車で2時間を要したり、仮設住宅におけるコミュニティやセキュリティ、道路状況、交通手段など、被災地に住む方々は多くの問題に直面していることを痛感しました。

東北圏広域地方計画推進室では、11月28日(月)に東北圏広域地方計画シンポジウム『東日本大震災、被災地からの証言』を開催します。このシンポジウムは東北圏における被災キーパーソンが被災時に何を思い、考え、判断し、どのように行動したか等について生の声が聞ける大変興味深いものです。ぜひ参加していただき、今後の防災計画の策定・見直し等に大いに役立てていただければと思います。(P. P)

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp